

## 経営改善計画期間中に生産活動に係る事業の収入額の増加に関する資料

### 1. アボカドの生産・販売について

当事業所では農業部門の品目としてアボカドの栽培を 2011 年より開始した。理由として、日本での輸入量が 2000 年代に入り急増し日本でも日常的な果実となっていることや、温暖な愛南町で生産が可能、日本（沖縄県、和歌山県、鹿児島県、高知県など）でもわずかに生産しているものの大規模な生産地は見られず、日本国内で消費されるアボカドはほぼ輸入されたものとなっていること等である。

そのような中、現在まで段階的に圃場の開墾（御荘平山一約 1.5ha）をし、育苗・土づくり・圃場に苗を移したあとの管理方法など様々な方法を試しノウハウを蓄積してきた。アボカドの苗木も成長し、昨年 2 月に東京銀座千疋屋でのセールをすることができた。しかし、同年 2 月に発生した寒波による木のダメージが大きく、花芽や葉を落としたため結実には至らず、昨年度は出荷ゼロの実績となった。今年度については現在のところ、天候による被害もなく順調に発育しており、このまま問題が起きなければ過去最大の収穫量が見込めている。

販売については、前回同様に東京銀座千疋屋での販売を予定している。既に先方から当地のアボカドの状態の確認へ訪れており、出荷を待ち望んでくれている状況である。

また、関東方面のスーパーや百貨店からの商談もあり、販路については確保できている。安定した供給体制を図るため、定期的に愛南町や県産業振興課・農業指導班の協力及び情報交換を行っている。またハウス栽培についても引き続き協議している。

### 2. あまご養殖について

昨年度は他地域から購入した卵がウイルスに感染しており、稚魚の段階で大量へい死した。そのため当初予定していた出荷量より大幅に下回り、売り上げも大幅に減となった。給水システムの修繕や日常的な管理についてはノウハウも確立したものの、病気の管理については関係機関（愛南町水産課、愛媛大学水産研究センター、愛南漁協等）の協力体制をさらに強化していきたい。

順調に養殖サイクルが回れば夏前より順次出荷を開始し、約 600 万円の売上が見込めるため利益も大きく確保することができる。稚魚の管理と病気の管理を徹底していきたい。

愛南町水産課、愛媛大学水産研究センター、愛南漁協、当事業所で「サツキマス」養殖の共同プロジェクトは順調に進行中。（当事業所の稚魚を海面養殖している）